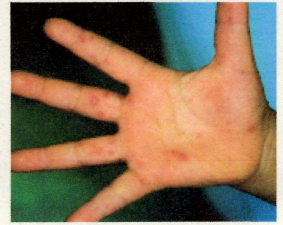


★ 知っておきたい病気 ★

○手足口病

<症状>

手足口病という名の通り、口の中、手のひら、足の裏などに発疹や水疱が出ます。潜伏期間は3～6日で、熱は37～38℃程度で、発熱しない場合もあります。1～3日で解熱しますが、まれに脳炎を伴った重症例もあります。



<原因ウイルス>

コクサッキーウイルスA群や、エンテロウイルス71型などであり、原因となるウイルスは多種多様です。



<感染経路>

飛沫感染、接触感染、糞口感染（糞便から排出されたウイルスにより口を通して感染すること）により感染が拡大するので、以下に注意します。

- こまめな手洗い
- 咳やくしゃみをする時には口と鼻をティッシュ等でおおう（またはマスクをする）
- タオルの共用を避ける

<感染期間>

症状がおさまった後でも、呼吸器からは1～2週間、便からは2週間～4週間、ときには数ヵ月間もウイルスが排出されることがあるので注意します。

<手足口病のケア>

口の中の発疹が痛むために、食事や水分を取りたがらなくなることがありますので、脱水症状を起こさないよう十分な水分補給を行い、柔らかく刺激の少ない食事を用意します。

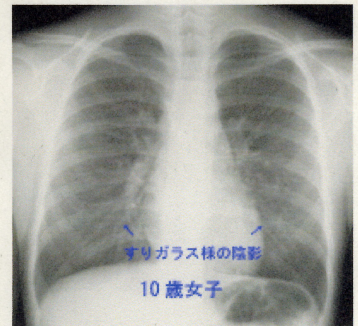
○マイコプラズマ感染症

【潜伏期】

潜伏期は2～3週間程度といわれています。マイコプラズマ感染症の人と接触してもすぐに症状が出てくるのではなく、2～3週間の間をおいて症状が出てきます。

【症状】

発熱で発症し、1～2日遅れて咳が出てきて、だんだん強まっていく、というのが典型的な経過です。咳は最初は空咳ですが、だんだん痰がからんできます。頭痛、全身倦怠感、咽頭痛を伴うことも多くみられます。



【どんな時にマイコプラズマ肺炎を疑うか】

- ①家族内にマイコプラズマ感染症の人がいる場合
- ②マイコプラズマ感染症が流行している場合
- ③長期間せきが続く場合
- ④喘息児が気管支拡張薬などの治療にもかかわらず喘鳴が長引いたり、発作を繰り返す場合
- ⑤セフェム系抗生物質を使用しても発熱や咳嗽がなかなか治らない場合

【検査】

マイコプラズマ感染を確認するための便利な検査が最近使用できるようになりました。咽頭拭い液を使用したマイコプラズマ抗原測定キットは、簡便で採血も必要ありません。肺炎があるかどうかは胸部XPで確かめます。マイコプラズマ肺炎のレントゲンはすりガラスにたとえられる薄い影が特徴とされますが、さまざまな肺炎像を示すことも多くあります。

【治療】

ペニシリン系やセフェム系などの抗生剤が無効で、マクロライド系やテトラサイクリン系の抗生剤が有効です。

- * 手足口病・マイコプラズマ感染症は「出席停止」とはなりません、感染しますので、登校の目安は、かかりつけ医の指示に従ってください。